

## ○令和5年度 教育事業

### 「全国高校生体験活動顕彰制度 地域探究プログラム（上富良野高校）」

（R5.4.14（金）～R6.3.18（月））

#### ◆目的

高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動をととして、問題発見・解決能力を身に付け、新たな価値を創造する人材の育成に資する。

#### ◆参加実績

北海道上富良野高等学校1年生 28名

#### ◆プログラム

##### ① アイスブレイク・コミュニケーショントレーニング・・・(4/14)

アイスブレイクのゲーム等を行い、参加者同士と職員との緊張感を解消し、話しやすい雰囲気をつくり、クラスの仲間と交流を深めた。

##### ② 地域探求ガイダンス・顕彰制度の説明・・・(4/28)

大雪職員が、全国高校生体験活動顕彰制度の趣旨や流れを説明し、十勝岳ジオパーク推進協議会職員から、十勝岳ジオパークについての説明を受けた。そして地域探究担当の教員が地域探究学習の流れを説明した。

##### ③ 課題発見プログラム1・・・(4/28)

学校周辺で撮影した写真を4種類提示し、それぞれの写真について感じた「なぜ」をふせんに書いてホワイトボードに貼り付け、同じ疑問や意味の似ているものを重ねたり近くに置いたりした。

##### ④ フィールドワーク・・・(4/28)

バスで「土の館」「上富良野開拓記念館」「十勝岳火山砂防情報センター」を順に周り、見学した。見学しながら気になったことや疑問に感じたことをノートにメモした。

##### ⑤ 課題発見プログラム2・・・(4/29)

プログラム1で見つけた疑問を見学場所ごとにふせんに書き出し、見学場所ごとの3グループで疑問の多いものや興味のあるものをピックアップして課題を考えた。

##### ⑥ 仮説検証プログラム・・・(9/13)

町内に流れる2つの川を、水質1（COD、アンモニウム態窒素、りん酸態りん）、水質2（透視度、温度、pH）、水生昆虫、水性微生物の4グループに分かれて調査した。

##### ⑦ データ分析・・・(9/13)

学校に戻り、データの集計や収集した生物の観察や分類を行い、自分たちの仮説を検証した。

##### ⑧ フィールドワーク発表会（10/3）

⑥⑦の活動を基に、自分たちがどのような仮説を立てて、どのような調査を行い、検証した結果仮説が立証されたかどうかをまとめ、グループごとに発表した。



⑨ 地域人材交流会・・・(11/10)

上富良野町の様々な分野に関わる方々から、それぞれの分野の現状や課題、高校生に伝えたいことや協力してもらいたいことなどを、生徒と質疑応答を交えながら交流した。

⑩ 実践活動テーマ設定 (3/18)

実践活動のテーマについて深めるために、関係施設への聞き取りや実地調査を行った。その後、学校に戻り、調べた内容のまとめや今後に向けての打合せを行った。



◆事業運営・企画のポイント

○学校連携型での実施のため、学校の要望や実態を踏まえて進行することができた。

○1年を通して探究の流れを学ぶことで、探究学習の流れが身につき、次年度の実践活動に向け、良い準備になった。



◆参加者の声

□自分たちが実際に行動することによって行動する前よりいろんなことを知ることができた。

□上富良野町の歴史や自然のことを詳しく調べたり、実際に行って実験してその結果を発表することが出来た。

□今まで自分の地域には住んでいたものの、自分の地域について課題を考えることがなかったのですごくいい勉強になりました。



◆事業の成果

① 学校連携型として実施をすることで、学校のカリキュラムに応じた弾力的な運用を行うことができた。

② 1年…探究のプロセスを学ぶオリエンテーション合宿  
2年…学んだプロセスを自分たちの興味関心に応じた課題探究に生かす実践活動

3年…町民発表、町長への提言

というように、学年が上がるにつれて学習内容を深めて

いく流れができた。また、外部に発信したり、上級生や下級生の取組を見たりすることで互いに刺激を受け、活動が活発化したり、自分たちの活動や学びに自信をもったりすることができる構図となった。

